

名胡桃城 群馬県利根郡みなかみ町下津 3437 番地

名胡桃城の元となった名胡桃館の主「鈴木主水」は、1578年に真田昌幸が沼田へ侵攻した際に臣従し真之が城として改修した後も城主として守備を任され、利根川と赤谷川の合流近く三方が絶壁となっている天然の要塞に作られた山城です。武田家の滅亡後、幾度となく沼田の領土争いを続けていた真田と北条だが、利根川を挟んだ沼田城を含む 2/3 を北条、名胡桃城を含む残り 1/3 を真田が治める条件で豊臣秀吉が仲裁します。しかし北条は偽の書状で主水を騙して名胡桃城を奪います。主水は奪回を試みますが果たせずに責任を取って切腹。この名胡桃城事件がきっかけとなり和議を反故にした北条を攻めたのが秀吉の小田原征伐です。豊臣秀吉の天下統一の発端となる小田原の北条征伐のきっかけになった「名胡桃城」は後の歴史を変えるほどの事件の舞台でしたが、現在は当時の姿はほとんど残っていません。(パンフ、説明版、旅コト資料)



城址の案内版

本郭



二の郭

二郭北虎口（本郭は奥）

本郭



二の郭

三の郭